令和５年度　幼児教育研修（年齢別担任研修２歳児・第１回）
「子どもの発達と保育者の関わりについて」
日時：令和５年６月７日（水）１５：００～１７：００
会場：西新井文化ホール
講師：東京未来大学　　非常勤講師　小野﨑　佳代　氏

2歳児の発達過程 ～その子らしい育ちを支える～

子どもの「今」の姿を受け止め、一人一人の異なる歩みに寄り添い、その子らしい育ちを支えることが大切です。

からだ

◆排泄の自立のための身体機能が整ってくる

◆その場での両足跳びや転びながらもよく走ること、片足立ちや階段の昇降など、基本的な動きができるようになる

◆はさみで１回切りや、ボタンはめができるようになる（指先の発達）

食事・排泄・衣類の着脱など身のまわりのことを、自分でしようとし、「何でも自分でできる」という意識が育つ

言葉

◆「これなあに？」「どうして？」などと盛んに質問するようになり、やりとりを通して言葉がますます豊かになる

◆知っている言葉が急増し、二語文から三語文になる（話し言葉の基礎）

◆簡単な絵本のストーリーがわかってくる

◆自分の意思や要求を言葉で表現できるようになる

◆「〇〇みたい」と比喩表現ができるようになる（想像力の発達）

人とのかかわり

◆自我の育ちの現れとして、強く自己主張するが、自分で気持ちを立て直すことが段々できるようになる（だだこねから自己復元へ）

◆「自分で」と何でも自分でやろうとする反面「できない」とやってもらいたがる（自立へ向かう姿）

◆2～3人の友達や保育者と、みたて・つもり遊びや簡単なごっこ遊びをする（象徴機能の発達）

象徴機能

目の前にないものを思い浮かべたり、違うものに見立てたりすることができるようになり、イメージの世界が広がること

簡単な絵本のストーリーがわかるようになったり、共通のイメージをもって遊びを楽しんだりするようになる

自立と甘えの間を揺れ動く2歳児 ～第二の自我・受容と共感～

2歳児あるある!!

大きくなったなぁ…と成長を喜ぶ反面、
どのように関わればよいのか悩んでいます

◆思い通りにならないことに、かんしゃくやだだこねをする

◆気の合う仲良しができて「○○ちゃんと一緒」が楽しい
一方で、自我と自我がぶつかり合いトラブルが増える

自我の育ち

**強い自己主張は
自我の拡大の現れ**

◆「何でも自分でやりたい思い」と
「できること」の間で揺れる

◆「こだわり」は、「自分が自分の
主人公」になる力

↓

子どもの気持ちを受け止めた上で、
保育者の思いも丁寧に伝えていく

○○したかったのね（受容・共感）

でもね・・・（保育者の思い）

↓

第二の自我へとつなげる

この時期の自己主張が育むもの

- 自己主張（思い）を受け止めてもらい、認めてもらうことで、自己肯定感が育まれ、「人への基本的信頼感」につながる
- ぶつかり合いや葛藤を経験する中で、少しずつ相手を受け入れ、折り合いをつける力（自己コントロール力）が育つ
- 自分の思いを伝えようとし、コミュニケーション力が育つ

**基本的信頼感を基盤にした
保育者の丁寧な関わりが
社会性の土台になります**

主体性を育む保育者の役割 ～一人一人の思いや願いを受け止める～

★揺れ動く気持ちを受け止め
前向きの葛藤につなげる

頑張ってやろうとする姿を
認め、否定的にならず、
自信をもてるように支える

★心身の発達状況に合った
楽しい活動（遊び）を豊か
にする

達成感や満足感が、自信や
意欲につながるように援助
する

★ごっこ遊びでイメージの
世界を豊かに広げる

保育者も一緒に遊びながら
一人一人の表現を大切に、
イメージとイメージをつなぐ

★友達への関心を広げながら
自分を作っていく姿を支える

「まねっこ」で広がる共感と、
自己主張のぶつかり合いを
丁寧に受け止めつなげる

生活面の援助

**大人がゆとりをもって、一人一人の
「今」の姿に合った対応をすることが大切**

完食を目指すので
はなく楽しく食べる

自分でやりたい
気持ちを大切に

子どもの意思を尊重し
時間だからと一方的に
遊びを中断しない

「前はできたのに…」
「だから言ったじゃない」
は禁句です。
「早く!!」と
急かさないこと。

～基本的生活習慣の獲得は、家庭との連携が不可欠～

保護者の生活や価値観が多様化している中、信頼関係を
築きながら、園での様子を丁寧に伝えることが大切です。
一方的に要求するのではなく、なぜ、それが必要なのかを
伝えながら、子どもの成長を共に喜ぶ姿勢で対応しましょう。

研修生の報告書より

2歳児は自己主張の時期。受容と共感を大切にした上で保育者の思いを伝え、第二の自我を形成していくことが成長のポイントであると感じた。子どもの内面の揺れや動きをしっかりと見て支え、保育実践していきたい。